

3月5日 聖日礼拝

前奏

招詞 エレミヤ書33章1、2節

「地を造った主、それを形造って堅く立てた主、その名が主である方が言われる。『わたしを呼べ。そうすれば、わたしはあなたに答え、あなたが知らない理解を超えた大いなることを、あなたに告げよう。』アーメン

賛美 聖歌443

大いなる方に(2回)

主の祈り

交読 詩篇140篇1〜8節

礼拝祈禱

使徒信条

聖書朗読 ルカの福音書

9章28〜45節

説教 栄光と混沌 荻野泰弘牧師

賛美 聖歌386

献金 聖歌376

頌栄 聖歌376

祝禱 聖歌376

報告

後奏 感謝祈禱

■聖歌443「めぐみのひかりは」

- ①恵みの光は やみじを歩く 私に救いを 届けてくれた
光の神は 愛にとむ父だ
- ②時には悩みで 暗くもなるが 御神の笑顔の かげる日はない
光の神は 愛にとむ父だ
- ③こころみこらえて 苦しむ時も 望みの光で なぐさめられる
光の神は 愛にとむ父だ
- ④親しい友でも 冷たくなるが 恵みの光の 消える日はない
光の神は 愛にとむ父だ

■「大いなる方に」

★大いなる方に 感謝ささげます 御子キリストの 愛のゆえに
聖なる方に 感謝ささげます 御子キリストの 愛のゆえに
今 弱い者よ 叫べ 勇士だと 勝利の主が 共におられる
今 貧しい者よ 叫べ富んでいると 恵みの主が 共におられる
(★くりかえし)

感謝します

■主の祈り 天にましますわれらの父よ。ねがわくは 御名^{みな}をあがめさせたまえ。御国^{みくに}をきたらせたまえ。御心^{みこころ}の天になるごとく、地にもなさせたまえ。われらの日用^{にちよう}の糧^{かて}を今日もあたえたまえ。われらに罪をおかすものを われらが 赦すごとく、われらの罪をも赦したまえ。われらを ころみにあわせず 悪より救いいだしたまえ。国と力と栄えとは かぎりなく なんじのものなればなり。アーメン

■交読 詩篇140篇1～8節

- 1 主よ 私をよこしまな人から助け出し
暴虐（ぼうぎゃく）を行う者から守ってください。
- 2 彼らは心の中で悪を企み（たくらみ） 日ごとに戦いを仕掛けてきます。
- 3 蛇のようにその舌を鋭くし 唇の下には まむしの毒があります。
- 4 主よ 悪（あ）しき者の手から私を守り
暴虐（ぼうぎゃく）を行う者からお守りください。
彼らは私の足をつまずかせようと企（たくら）んでいます。
- 5 高ぶる者は 私に罿（わな）を仕掛け
綱（つな）で 網（あみ）を広げ
道端に落とし穴を設けました。
- 6 私は主に申し上げます。
「あなたは私の神。主よ 私の願いの声を聞いてください。
- 7 私の主 神 私の救いの力よ。
あなたは私が武器を取る日に
私の頭（あたま）をおおってくださいました。
- 8 主よ 悪者の願いをかなえさせず
その企（たくら）みを遂げさせないでください。
彼らは高ぶっています。
- 9 私を取り囲んでいる者たちの頭（あたま）。
これを自らの唇（くちびる）の害悪（がいあく）がおおいますように。
- 10 燃える炭火が彼らの上に降りかかりますように。
彼らが火の中に 深い淵（ふち）に落とされ
立ち上がれないようにしてください。
- 11 そしる者が地上で栄えませんように。
わざわざいすぐにも暴虐を行う者を捕らえるようにしてください。」
- 12 私は知っています。
主が苦しむ者の訴えを支持し
貧しい者のために さばきを行われることを。
- 13 まことに 正しい人はあなたの御名（みな）に感謝し
直（す）ぐな人はあなたの御前（みまえ）に住むでしょう。

■使徒信条 われは天地のつくりぬし、全能の父なる神を信ず。われはそのひとりご、われらの主、イエス・キリストを信ず。主は聖霊によりてやどり、おとめマリヤより生まれ、ポンテオ・ピラトのもとにくるしみをうけ、十字架につけられ、死にてほうむられ、よみにくだり、三日目に死人のうちよりよみがえり、天にのぼり、全能の父なる神の右に座したまえり。かしこよりきたりて 生けるものと死にたるものとを さばきたまわん。われは聖霊を信ず。聖なる公同の教会、聖徒のまじわり、罪のゆるし、からだのよみがえり、とこしえのいのちを信ず。アーメン

■聖書朗読 ルカの福音書 9章28～45節

- 28 これらのことを教えてから八日ほどして、イエスはペテロとヨハネとヤコブを連れて、祈るために山に登られた。
- 29 祈っておられると、その御顔の様子が変わり、その衣は白く光り輝いた。
- 30 そして、見よ、二人の人がイエスと語り合っていた。それはモーセとエリヤで、
- 31 栄光のうちに現れ、イエスがエルサレムで遂げようとしておられる最期について、話していたのであった。
- 32 ペテロと仲間たちは眠くてたまらなかったが、はっきり目が覚めると、イエスの栄光と、イエスと一緒に立っている二人の人が見えた。
- 33 この二人がイエスと別れようとしたとき、ペテロがイエスに言った。「先生。私たちがここにいることはすばらしいことです。幕屋を三つ造りましょう。一つはあなたのために、一つはモーセのために、一つはエリヤのために。」ペテロは自分の言っていることが分かっていなかった。
- 34 ペテロがこう言っているうちに、雲がわき起こって彼らをおおった。彼らが雲の中に入ると、弟子たちは恐ろしくなった。
- 35 すると雲の中から言う声が出た。「これはわたしの選んだ子。彼の言うことを聞け。」
- 36 この声が出たとき、そこに見えたのはイエスだけであった。弟子たちは沈黙を守り、当時は自分たちの見たことをいっさい、だれにも話さなかった。
- 37 次の日、一行が山から下りて来ると、大勢の群衆がイエスを迎えた。
- 38 すると見よ、群衆の中から、一人の人が叫んで言った。「先生、お願いします。息子を見てやってください。私の一人息子です。」

- 39 ご覧ください。霊がこの子に取りつくと、突然叫びます。そして、引きつけを起こさせて泡を吹かせ、打ちのめして、なかなか離れようとしません。
- 40 あなたのお弟子たちに、霊を追い出してくださいとお願いしたのですが、できませんでした。」
- 41 イエスは答えられた。「ああ、不信仰な曲がった時代だ。いつまで、わたしはあなたがたと一緒にいて、あなたがたに我慢しなければならないのか。あなたの子をここに連れて来なさい。」
- 42 その子が来る途中でも、悪霊は彼を倒して引きつけを起こさせた。しかし、イエスは汚れた霊を叱り、その子を癒やして父親に渡された。
- 43 人々はみな、神の偉大さに驚嘆した。イエスがなさったすべてのことに人々がみな驚いていると、イエスは弟子たちにこう言われた。
- 44 「あなたがたは、これらのことばを自分の耳に入れておきなさい。人の子は、人々の手に渡されようとしています。」
- 45 しかし、弟子たちには、このことばが理解できなかった。彼らには分からないように、彼らから隠されていたのであった。彼らは、このことばについてイエスに尋ねるのを恐れていた。

■聖歌 386 「たれかは述べうる」

①たれかは述べうる み神の愛をば くらぶるものなし 広さも 高さも
十字架に かかりし 罪人さえ 罪をば赦され 安きをえぬ

※ゆたけくたえなり み神の愛 天地（あめつち）去るとも 変わらぬ愛

②火は燃え 水わく 悩みの夜にも
疫病（えやみ）と いくさを むこうる朝にも
み神は 恵みの み手をば のべ すべての悩みに 勝たせたまわん

③心に持たまし この世を去るとき この身を救いし み神の愛をば
み顔を 仰ぎて たたえ歌わん ことばのかぎりに み神の愛

■頌栄 聖歌 376 「父 御子 御霊の」

父・御子・みたまの おおみかみに とこしえかわらず
御栄えあれ 御栄えあれ アーメン